大塚敬節
矢数道明 責任編集

近世漢方医学書集成

64

蘆川桂州

名著出版刊

南京中医药大学图书馆版权所有

近世漢方医学書集成 64 蘆川桂洲 第Ⅲ期 全40巻

昭和五十七年四月二十三日 発行

編者 大塚敬節 矢数道明

発行者 中村安孝

発行所 株式会社 名著出版
東京都文京区小石川三ノ十ノ五
電話東京(八一五)一二七〇番(代)
振替口座 東京七—一〇七九四番

予約限定版

製版所 株式会社 日本写真製版社

印刷所 有限会社 伊藤印刷

製本所 辻本製本所

落丁本・乱丁本はお取替えします。

3347—0962—8324

責任編集

大塚　敬節

矢数　道明

編集委員

山田　光胤

寺師　睦宗

大塚　恭男

矢数　圭堂

松田　邦夫

凡　例

一、本書第六十四巻「蘆川桂洲」には『病名彙解』を収録した。

一、本書は全て影印版によって収録したが、影印にあたっては次のようにした。

イ、新たに柱と頁数を付した。

ロ、底本を縮少し、一頁に半丁ずつ収めた。

ハ、裏表紙や記事のない白紙は省略した。

ニ、底本にある蔵書及び書き込み等は省略した。

ホ、印刷不明な箇所は、他の版本等により補正したところもある。

一、底本は次の通りである。

　病名彙解　版本（貞享三年版）七巻序目一巻八冊（矢数道明所蔵）

一、解説は室賀昭三（日本東洋医学会監事）が執筆した。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongboo

蘆川桂洲

室賀昭三

蘆川桂洲について

蘆川桂洲は『病名彙解』の著者として知られているが、桂洲その人について分かっていることは極めてとぼしい。生年、没年等も全く知られていないが、奈須柳村（恒徳）の『瘳悛志』に次のような記載があると言われる。

「元禄中蘆桂洲は彦根の医なり、著書多し。病名彙解今人その誤あるを證すれど、容易の著述にあらず、甚だ初学に便なり。食用簡便亦坐右に置くべき書なり。当時術行はれて掃門頭殿より三百石を賜ふといふ。詩賦にも心を寄せたりと見へて錦繡襄という小本、元禄五年の刻本あり、詩

筵に携ふるに便なり。其胤今に存す、艸山某といふ。」

とある。

彼の名は正柳、字は道安、通称は正立、桂洲と号した。著した医書として『病名彙解』、『袖珍医便大成』、『片玉本草』、『煎炙食用簡便』がある。これらのほか、儒学として『孝経大義詳解』、詩学として『詩林錦繡襄』があると言われる。彼の著述の多くが貞享・元禄の間にされているので、彼がこの時代の人であることと思われるが、没年、年齢等は不明である。

元禄三年（一六九〇）に出版された『袖珍医便大成』はいわゆる通俗書ではあるが、凡例の第一に「此書至って俗語を以て書しるす事片郷の野巫医（現在でいう藪医のこと）或は医療に志ある俗家の其の理を知りやすからん事を欲してなり。医学の心得薬調剤の次第は一溪翁の切紙又は老医の證語を以て逐一に書つくる所なり。」と述べ、曲直瀬道三の流儀すなわち後世派であることを述べている。凡例の終りに「悉く妙方を記して世に伝ふるものなり。これを用ひば必ず余の言の誤らざることを知べきのみ。」と述べ、相当な自信を示している。

また同書の巻首には次のように述べている。

「医道に志を深くし治療を業とせんと思ふ者は儒学のつとめなくては医書のむね明らめがたし。四書五経の文理大方にすまし、其後素問難経の理を逐一に明め極むべし。かくの如くなる時は入門回春等の治療書の理自ら明にして病を治するに誤れることなし。然れども近代医を業とする者

学問の功をつみて脈象経絡を明め薬を施す者は甚だ稀にして、渡世のために一向に文蒙なる族一二の妙薬かな書の医書を以て療治をなす者は甚だ多く、医は人の命の生死にあづかる者なれば平生心がけて医書の趣きを極め知らんこと肝要のことなり。と世の一般の医師を痛烈に攻撃している。彼が単なる一医師でなく、儒教の著書があることで分かるように儒教をよく学んでいて、医学の根底に儒教をすえていたことが知られる。

彼は「医学に志深からん者は左に記す所の書を一通りは見るべし」として左の書をあげている。素問次註・同註證発微・類経・難経本義・運気論・十四経発揮・涇洄集・原病式・局方発揮・甲乙経・千金方・三因方・證治要訣・證治準繩・古今医統・医学綱目・医学入門・医学正伝・名医方考・万病回春・寿世保元・済世全書・薛巳十六種・名医類案・本草綱目。

以上の書をあげているが、これらの本を全部読むのは相当な勉強家でないと無理であろう。これからみると桂洲は非常な勉強家であり、特に後世方に詳しかったと思われる。

同書の前記の書名のつぎに「医師心得」が記されているが、その中に貴賤親疎による区別をしてはいけないとか、薬代の多少を論じて心に憤を持ってはいけないとか、専ら慈悲の心あるを医者の本務とするとか、総じて若い女性を療治するときは仮にも戯れの言葉を発してはいけない。脈をとるときは近くに人がいるときにして、すこしでも人に不審を立てられると一生の害となるなどと細かい注意を述べている。これでみると桂洲は極めて真面目な医師であったと思われる。

以上の事から

一、蘆川桂洲は彦根出身で、その生没年は不明であるが、貞享・元禄前後に京都に住んだ儒学に詳しい医師である。

二、彼の医学の師は不明であるが、後世派に属する。

三、宇都宮遯庵の門人で朱子学を修めた。

以上の事が言えると思われる。

病名彙解について

本書は貞享三年（一六八六）に著されたとされ、全八巻、病名をいろは順に並らべ、解説をほどこしてあり、収められた病名は全部で一千八百二十二の多きに達する。その内容はまず病名をあげ、『外科正宗』、『万病回春』、『証治準繩』、『医学入門』、『素問』、『医学綱目』、『病原候論』等の多くの著書から引用した解説を述べているが、出典を明らかにしていないものも多数ある。

本書全部に通ずる基本的な考え方が凡例五則にのべられているが、その大意は

一、およそ病気というものには名前が付けられている。そしてその名前とその病状、原因などを知らずして医学を論ずることはできない。今その病名をあげ、その病を論じたものを仮名まじりの平易な文で述べ、初学者にも見やすくしたものである。

二、この本は書斎で書を読んだ時に出てきた病名を集めたもので、必ずしも病証による分類ではないし、中には誤りもあるかと思われるが、語句の解釈は名医といわれた人の説を引用してあり、すこしもとりとめのない説や誤った憶説ではない。読者はそのよいところを採って利用してほしい。

三、此の本に収めた病名は極めてわずかなものであり、これは著者がまだ見識がたりないからである。後日増補訂正の書が出版されれば幸いである。

四、治療に使用する薬方をつけ加えようとの希望があったが、あまりに多すぎるので中止した。引用した原典を参照してほしい。

五、人の病は六気七情の過不足に原因する。このことを念頭において病因を考えれば、病名の千差万別はたちまち白日のごとく明らかになる。このような本を出版することはあつかましいとのそしりをうけるかもしれないが、初学の人の入門の手引きとして有用であろう。と述べている。一千八百以上も病名を集めながら「九牛の一毛」であるとか、「顔甲の謗を求むるに似たり」と謙遜しているが、また一方では「明医の成語を引證して秋毫も孟浪杜撰の憶説にあらず」と強い自信を示している。まさに桂洲を代表する自信作といえる著作であろう。

引用した著書の大部分は後世方に属しており、当然ながら解説の内容は後世方の立場からなされていて、古方の立場からみるとちょっと物足りないという感は否定することはできない。しか

し、一千八百以上の病名を集めた和文による解説であり、当時の人々を利するところが多かったと考えられる。今日我々が使用する病名もところどころに散見し、興味深い記載がある。たとえば、耳聾はニロウと読み、解説が附されているが、その中に「龍は角にて物音を聞いて、耳にてはきかせぬ也。故に龍の耳と書けり」と述べられているのが面白かった。このほかにも、今日でも読者にとり参考となる多くの有用な意見が述べられている。

筆者たちは先年、日本東洋医学会の需めに応じて『東洋医学用語集・漢方後世方篇』を作製し、漢方医家にいささかの貢献を果たしえたと思っているが、そのさいに本書も参考として活用させていただいた。本書はまさに江戸時代の『東洋医学用語集・漢方後世方篇』であり、当時の漢方医家に大きなメリットを与えたと思われる。筆者が本書の解説を担当するようになったことに何かしら因縁を感じる次第である。

本稿の執筆にあたり、安西安周氏の『日本儒医研究』を参考にさせていただいた。感謝の意を表したい。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongboo

蘆川桂洲

目次

凡例……二七
解説……室賀昭三……二九
病名彙解……三
序目……三
序……五
凡例……九
巻之一……六五
以部……六七
噎膈……六七　飽逆……七〇　胃反……七一　胃泄……七二
胃瘧……七二　胃脘痛……七二　飲痛……七三　胃癰……七三
胃脘癰……七三　胃風……七三　遺毒……七四　遺精……七四
遺溺……七六　遺尿……七六　痿躄……七六　溢飲……七七
飲注……七七　陰尸……七八　陰黄……七九　陰陽易病……七九
陰汗……七九　陰嚢癰……八〇　陰蝕瘡……八一　陰瘡……八一
陰癲……八二　陰虱……八二　陰疽……八二　陰吹……八三
陰陽疽……八三　陰毒……八三　陰痒并陰痛……八四　陰腫……八四

陰挺并陰脱…八五
陰冷……八五
陰翻……八六
陰臭……八六
陰瘡気……八六
瘖瘂……八六
頤頸瘡……八六
伊火丹……八六
咽喉垂倒……八七
咽喉瘡……八七
咽喉不利……八七
逸風瘡……八七
飲癖……八八
一石米瘡……八八
陰虚火動……八八
癮疹……八八
飲瘧……八九
一葦航海……八九
陰血……八九
陰痔……八九
一把縛……九〇
胃絶肺敗……九〇
呂部……九一
漏瘡……九一
螻蛄漏……九一
螻蛄串……九三
漏胎……九三
漏帯……九四
漏風……九五
漏下……九五
弄胎……九五
漏精……九六
露瘨……九六
露敗瘡……九六
路歧……九七
弄舌……九七
漏脓……九七
鸕鷀瘟……九八
驢背風……九八
轆轤晨晴……九八
漏漿……九九
漏気……九九
波部……一〇〇
肺癰……一〇〇
肺痿……一〇一
肺風……一〇一
潘唇……一〇三
馬刀癰……一〇三
馬牙瘡……一〇三
馬瘤……一〇四
馬脾風……一〇四
馬皮癬……一〇四
馬毒入瘡……一〇四
白蛇纏……一〇五
白遊風……一〇五
白駁風……一〇五
白禿風……一〇五
白屑風……一〇六
梅花疙……一〇六
白丹……一〇六
白癬……一〇六
白蟻瘡……一〇七
白崩……一〇七
白珠子……一〇七
白頭瘡……一〇七
白刃疔……一〇七
白癜風……一〇七
白気微泄……一〇八
白婆瘨……一〇八
白赤眼……一〇八

廃竈火丹……一〇八
抜歯損……一〇九
敗疵……一一〇
半産……一一一
背僂……一一三
発猪癎……一一四
胞疸……一一四
疱瘡……一一五
白癜……一一七
八瘕……一一八
盤腸気……一一九
梅花翳……一二〇
梅核気……一一〇八
破傷風……一一〇九
瘖瘂……一一〇
盤腸痛……一一一
髪瘤……一一三
発雞風……一一四
胞転……一一五
髪黄……一一五
髪泉……一一七
白疽……一一八
髪際瘡……一一九
馬疵串流并馬瘴……一二〇
蟠蛇癧……一一〇九
破傷湿……一一〇
盤疝……一一一
板黄痘……一一二
髪癥……一一三
発顕……一一四
晩発……一一五
斑毒……一一六
馬爪瘡……一一七
白頂瘡……一一八
破甕澄漿……一一九
破胭……一二〇
八脚虫……一一〇九
胖病……一一〇
肺労……一一一
盤腸産……一一二
発洪……一一三
発暴……一一四
番胃……一一五
斑疹……一一六
薄皮瘡……一一八
白沃……一一八
馬馳剣道……一一九
破胭……一二〇

仁部……一二〇

尿牀……一二〇
耳聾……一二一
耳蕈并耳痔……一二三
乳癰……一二四
乳癇……一二五
肉極……一二六
肉瘤并肉瘻……一二七
尿血……一二一
耳聹聹……一二三
乳鵝……一二三
乳岩……一二四
肉刺……一二五
肉錐……一二六
二形……一二七
尿精……一二一
耳湿……一二三
乳懸……一二三
乳結核……一二四
肉亀……一二五
肉壊……一二六
乳嗽……一二七
尿竈火丹……一二一
耳風并耳疳……一二三
乳疳……一二四
乳腫……一二五
肉裂……一二五
肉人……一二六
肉瘕……一二八

肉線……一二八
保部……一二九
翻胃……一二九
蜂窠発……一三一
犯風噤……一三三
放標……一三四
賁豚……一三五
犯丁瘡腫……一三七
蜂窠瘡……一三七
犯黄……一三八
冒風……一四〇
龐竈丹……一四一
膨脖……一四三
崩砂脱口風……一四四
犯奪天梯……一四四
辺部……一四五
便毒……一四五
米疽……一四七
変蒸……一四九
擘蟹毒……一四九
耳発疽……一二八
発背……一三〇
蜂子毒……一三一
哺露疳……一三三
牡瘧……一三四
暴瀉……一三五
犯丁腫……一三七
蜂窠癧……一三八
奔気……一三九
木腎……一四〇
発沙病……一四一
翻空痘……一四三
蜂疽……一四四
便癰……一四六
便濁……一四七
反張……一四九
閉癃……一五〇
耳根毒……一二八
崩漏……一三〇
痺痤瘡……一三三
報痘……一三三
牡痔……一三四
犯土腫……一三五
蜂螫……一三七
翻花瘡……一三八
乏気……一三九
沸爛瘡……一四〇
鳳眉疽……一四三
発班……一四三
瘍疽……一四四
騙馬墜……一四六
便血……一四七
偏墜……一四九
偏風……一五〇
乳泣……一二八
暴火丹……一三一
崩沙耳口風……一三三
母痘……一三四
蜂漏……一三五
犯丁瘡……一三六
発乳……一三七
皰……一三八
暴癥……一三九
沸子……一四一
鶩溏……一四三
反戻……一四三
発熱血……一四四
偏枯……一四七
癖疾……一四八
偏産……一四九
齦癥……一五〇

米癥……一五一
眇目……一五二
熛火丹……一五四
熛瘡……一五七
髓瘕……一五一
瘭疽……一五三
癖石……一五五
併病……一五六
癖飲……一五二
膈病……一五四
碧翳……一五七
偏視……一五三
偏頭痛……一五四
標叔疽……一五七
土部……一五八
痘瘡……一五八
痘風……一六二
臀癰……一六四
吐痢……一六五
毒注……一六六
特疽発……一六七
努肉……一六九
兎缺……一七〇
吐虻……一七一
肚瘥……一七二
透腸疔……一七三
痘癩……一七四
妒乳……一七六
吞酸……一六〇
痘癰……一六三
吐唲……一六四
吐泻……一六五
遁注……一六六
敦疽……一六七
盗汗……一六九
毒腫……一七〇
斗底瘋……一七一
塔腮腫……一七二
刀癬……一七三
痘蛆……一七四
吐酸……一六二
痘疔……一六三
吐舌……一六四
洞泄……一六五
土注……一六六
禿瘡……一六七
登豆瘡……一六九
土風瘡……一七〇
透脳疽……一七一
刀鎌疔……一七二
痘子……一七三
痘臭……一七五
吐血……一六二
凍風……一六四
吐逆……一六五
遁尸……一六五
独骨瘡……一六六
兎齧……一六八
凍死……一六九
凍爛腫瘡……一七一
通睛……一七二
橘著毒……一七三
檮杭痘……一七三
妒精瘡……一七五
卷之二……一七七
知部……一七九

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongboo